学びの広場

松田町のオリジナル チャレンジデー

チャレンジデーは、日本では笹川スポーツ財団が1993年から実施しています。

対戦相手とその参加者の参加率（%）を競うものですが、松田町はこれを「まちづくり」につなげるため、独自の手法を加えることにしました。

参加までの経緯

当町がチャレンジデーに参加することを決定したのは、申込締め切り日の2月14日。多くの町民の皆さんに参加していただくには、この事業の目的を充分に説明し、賛同していただくよう周知期間が必要と考え、当初は平成27年からの参加を考えていました。

しかし、1月に神奈川県知事が「未病を治すかながわ宣言」を行いました。これは、健康寿命を延ばし、高齢になっても誰もが健康に暮らし、長生きして幸せだったという社会を実現することを目指した取り組みを市町村などと協力して進めるというもので、当町としても積極的な協力を行うこととしました。さらに当町は、チャレンジデーの趣旨に加え、この機会に参加者を集めるという目標により、町が一丸となって取り組み、継続できるような事業になるよう参加を決意しました。

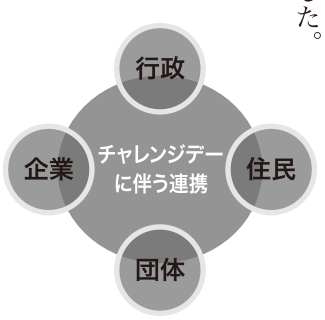
神奈川県は
チャレンジデーを応援しています

オリジナル　①変化を求める

地域住民同士のつながりの希薄化、縦割り行政などが指摘されています。

少しでも変化を求めるため、町オリジナルのチャレンジデーの取り組みを企画しました。

その内容としては、役場内全課が何らかの事業を計画し、そのための調整を図りました。その際、ただ運動やスポーツの事業を行うのではなく、各分野において町民の皆さんに知らせたい事業などをPRする企画をしています。また、この機会に様々な企業や団体などにも呼びかけすることで、有事の際などの対応がスムーズに図れるような仕組み（連携）づくりの一歩となる事業なども計画しました。



オリジナル　②意識改革

そのためには、町職員が先頭に立てるような体制作りも必要です。現在、庁舎では、毎朝始業前に町職員がラジオ体操を行っています。それに加え、チャレンジデーの参加表明後の2カ月間で町職員の6割が神奈川県の推奨する「3033運動普及員養成講座」を受講し、普及員としての活動ができるようになりました。

このように、何かをやろうとするからには、先導するものが手本を示し、教わったことを伝えるという社会教育を実践する事業でもあります。

北海道東神楽町との勝負は、やるからには勝つことも大事ですが、今回の松田町チャレンジデーは、勝敗とは別に、この事業にどれだけの人の理解と協力が得られるかが重要です。更には運動やスポーツを行うきっかけとなる中で育まれる新たな町民同士の連携による『まちづくり』が期待されます。

何事も参加しなければ分かりません。

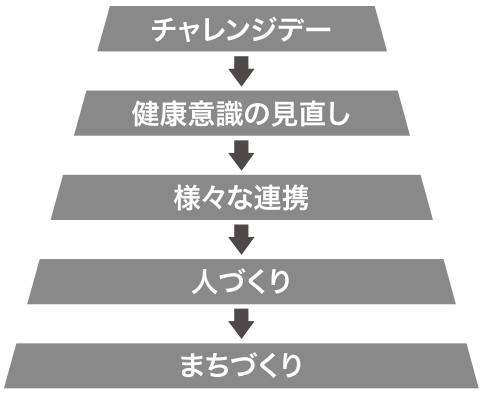
参加することで、皆さんの意識が変わり、更には新たなまちの形が生まれる可能性があります。

人それぞれ、健康意識も違い、また、仕事や家事、勉強と色々あると思います。

週の真ん中、水曜日に実施するチャレンジデーに、奮って参加をお待ちしています。

毎朝、役場ではラジオ体操を行っています

3033運動普及員養成講座



3033（サンマルサンサン）運動とは
1日30分、週3回運動やスポーツを3カ月間継続することを実施し、運動やスポーツをくらしの一部として習慣化していただく活動です。

【問い合わせ】教育課生涯学習係　☎(83)7023

新しい校長先生

4月1日付で、昇格された根津校長先生の「経歴」、「自己PRと抱負」を紹介します。

寄中学校　根津（ねつ）　憲一（けんいち）　校長先生

【経歴】
湘光中学校に美術科の新採用教員として着任。それ以後、文命中学校教諭、南足柄中学校教諭、中井中学校教諭、総括教諭、教頭を歴任。寄中学校教頭着任後、平成24年度県公立中学校教頭会会長、平成25年度全国公立中学校教頭会役員を歴任。

【自己PRと抱負】
新潟県十日町市に生まれ、高校時代より彫刻制作を続けています。現在も展覧会への出品を目標に、細々ではありますが制作に取り組んでいます。制作を通して「自己」の考えや行動を創造し追求する姿勢」が身に着きました。また、別の自分を見つめることができる「趣味」を持つことの大切さを実感しています。

寄の地で4年目を迎えますが、変わることのない豊かな自然と人の温かさに日々感動。素晴らしいこの地で教職を務めていることに幸せを感じています。

地域の皆さんのお力添えをいただきながら、幼稚園、小学校との連携を大切にし、全教職員が一丸となって地域の子どもの夢の実現に向けて努めてまいりたいと考えています。

松田の文化財探訪

《指定文化財とその周辺9》

町文化財保護委員
鈴木一行

大蔵院（だいぞういん）（二）

大蔵院には「四耳壺（しじこ）」「三耳壺（さんじこ）」「梅瓶壺（めいぴんこ）」と呼ばれる鎌倉時代の瀬戸焼の壺が3点伝わっています（町指定文化財）。四耳壺とは、壺の肩に「耳」と呼ばれる飾りが四つあるところから付けられた名称です。

四耳壺　三耳壺　梅瓶壺

また、梅瓶壺は比較的小型で、瓶子（へいし）と呼ばれる酒器の一種です。当院の壺は3点とも釉（ゆう）がかけられており、口の部分が欠き取られています。これらは「太平洋戦争中増産のため大蔵院西側藪を開拓した際、五輪塔の下より骨が入ったまま出土したもの」だといわれています。

ところで、瀬戸焼は「中世における唯一の施釉（せゆう）陶器として、わが国で陶器らしい陶器が焼かれた」最初のものです。そして、日宋貿易などによってもたらされた中国産の陶磁器の影響を強く受けて、愛知県の瀬戸で焼かれたものでした。用途別に見ると、鎌倉時代には骨臓器（骨壺）に使用される四耳壺と社寺が祭祀に使用する瓶子が多く生産されました。なお、瓶子も骨臓器として使用された例が多くあるとのこと。すると、当院の瀬戸焼もこの範疇に入ることになります。

では、埋葬されていたのはどのような人物だったのでしょう？当時、高級な施釉の壺に庶民が納骨されたとは考えられません。すると、当地域に関係する有力者であったと思われます。しかし、大蔵院はもとは松田山中にあり、創建も戦国時代の大永7（1527）年のこととされています。さて、この空間と時間のズレをどう解釈しますか。